

現地視察会 説明資料

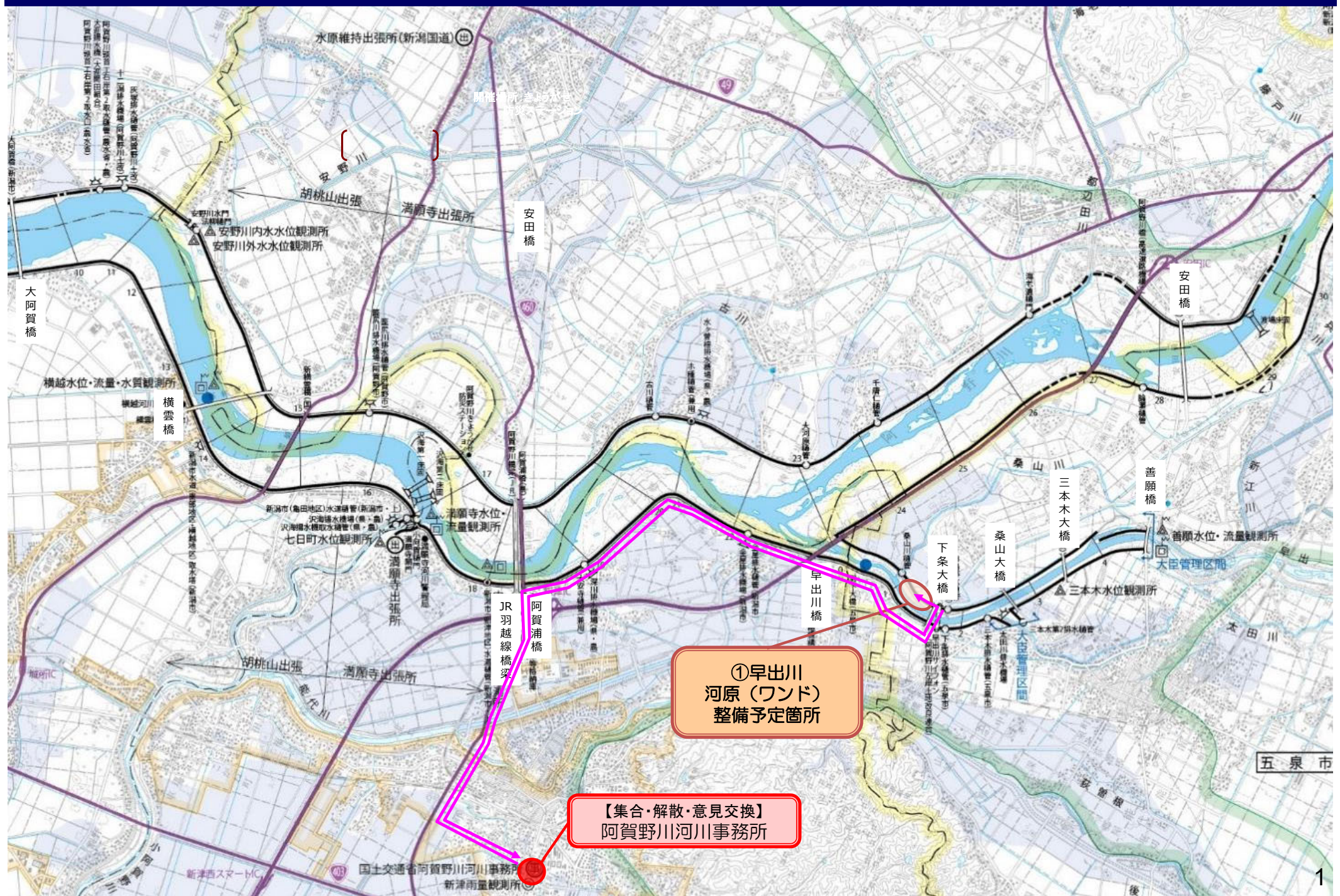


阿賀野川河川事務所

令和6年12月2日



阿賀野川自然再生事業 現地視察箇所

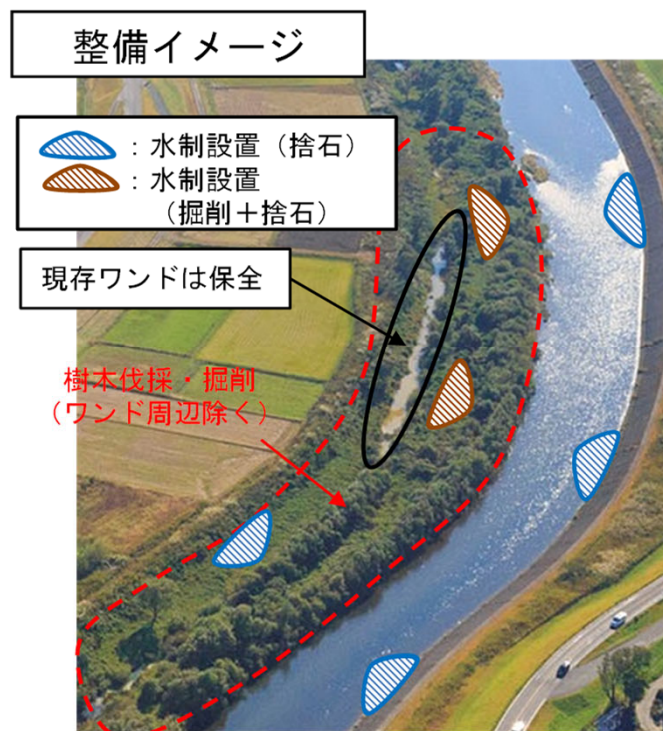
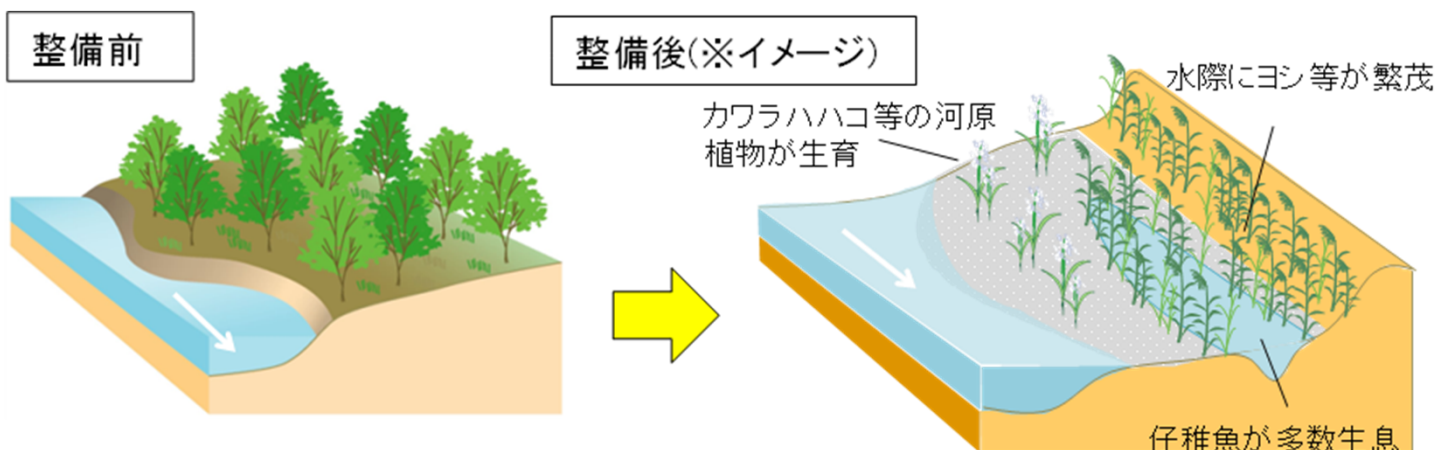


2. 早出川地区(河原(ワンド)の再生)の現況

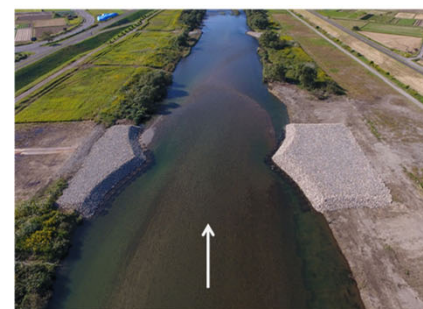




- かつて多く見られた湧水に依存したワンド・たまりの再生を目指し、現存するワンド環境を保全しつつ、低水路内の樹林化した箇所について樹木伐採・掘削を行う。
- 更に、短期的対応にて上流部で実施した『拡縮水路工法』を活用し、出水等により河床が変動し、瀬や淵、緩流域などの多様な流れから水域の再生を目指す。



- ・現存するワンド環境を保全しつつ、低水路内の樹林化した箇所について樹木伐採・掘削を行う。
- ・流れを変化させるきっかけとなる水制を両岸に設置。ワンド周辺は既存地形を活かし掘削により水制形状を造り、河床の攪乱を促す。



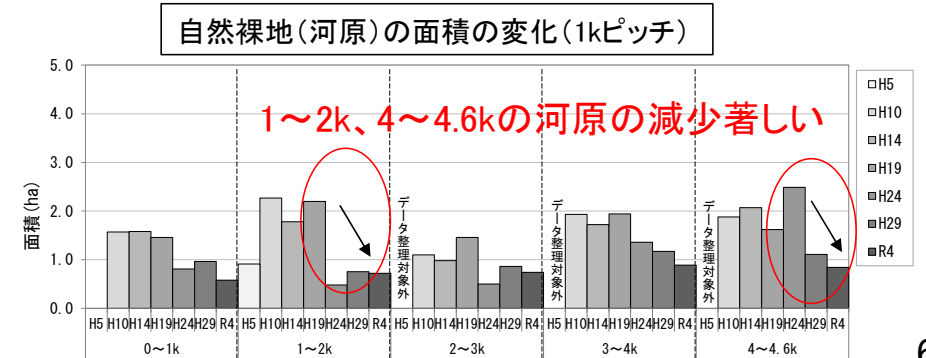
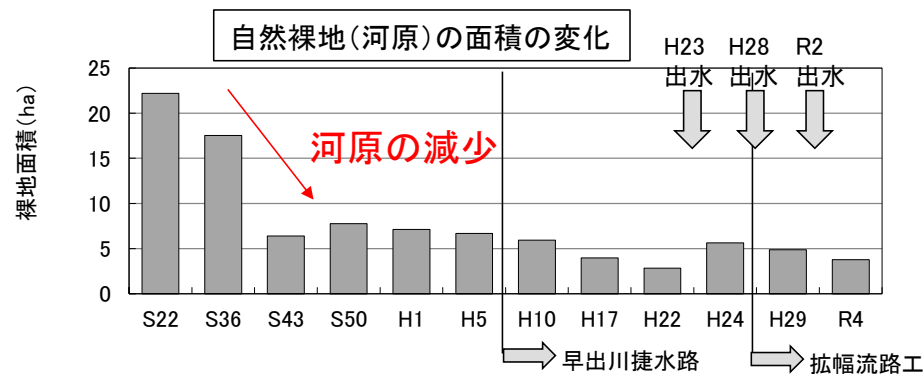
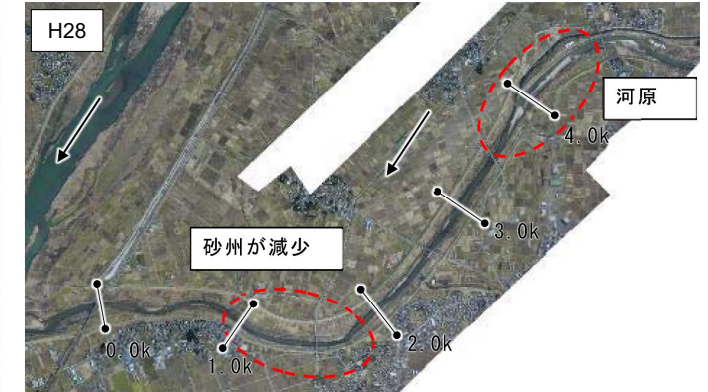
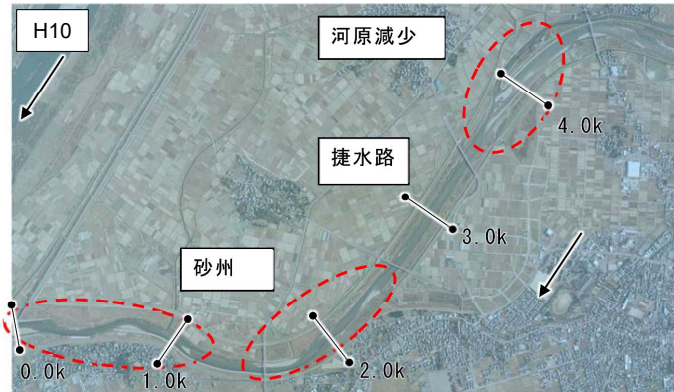
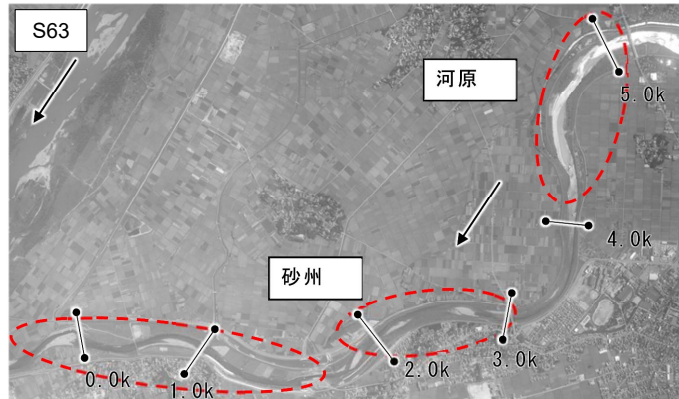
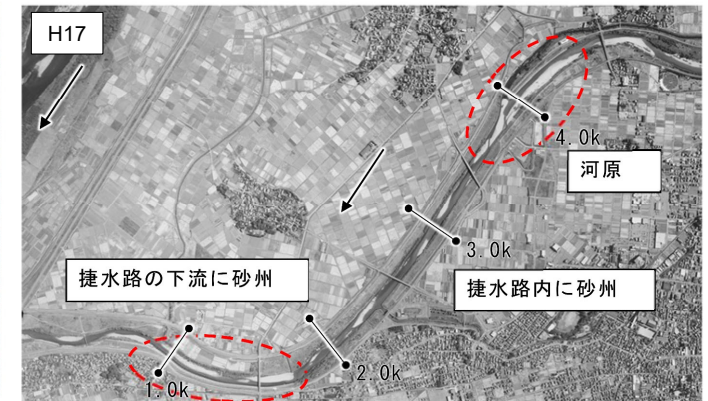
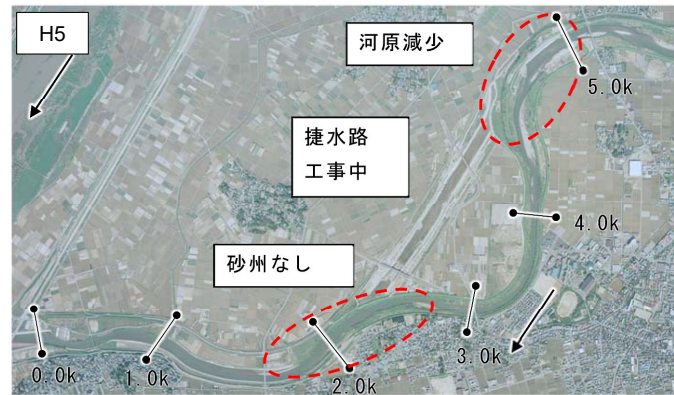
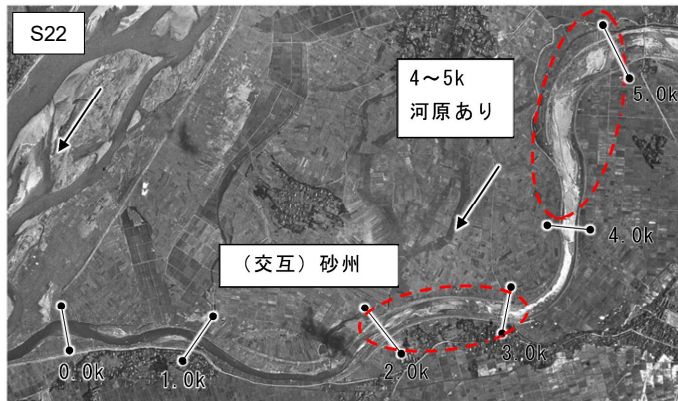
早出川 既往調査の整理：河原の面積の変化

河原の変化：0～2kはH28以降、河原は減少。2～3kは捷水路整備後のH10～H17まで河原がみられたが、H28以降、河原は減少。

3～4.6kは捷水路整備後のH10頃は河原が減少したが、H17以降は河原が形成されている。

河原面積の変化：昭和後半から自然裸地（河原）の面積は減少。

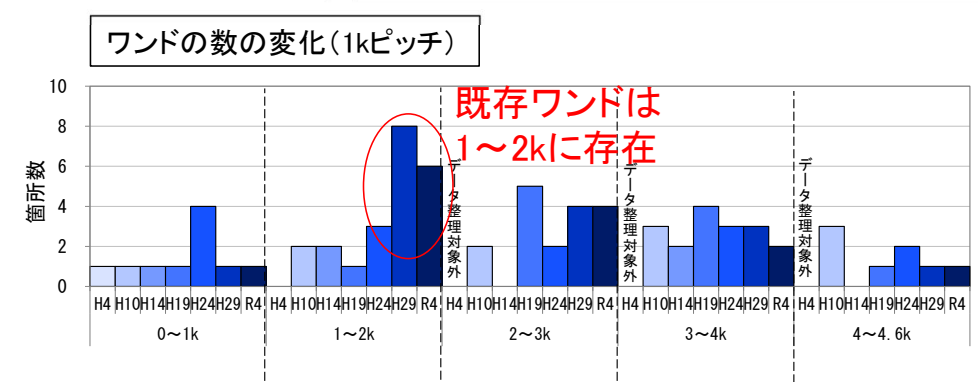
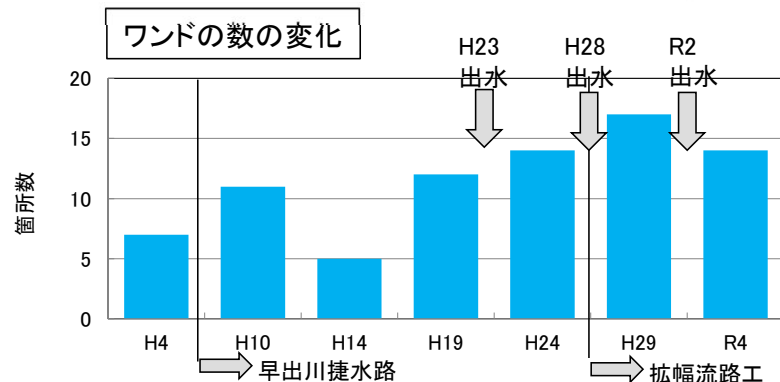
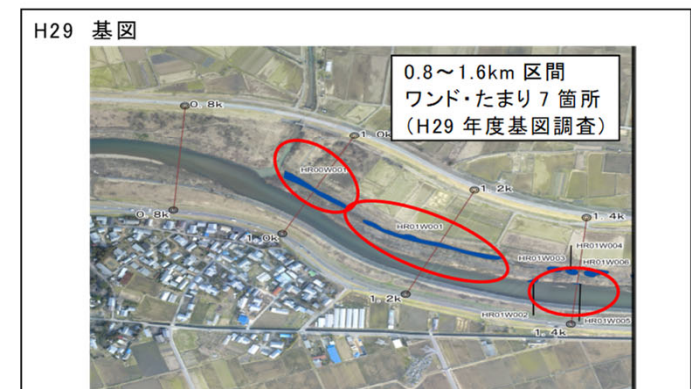
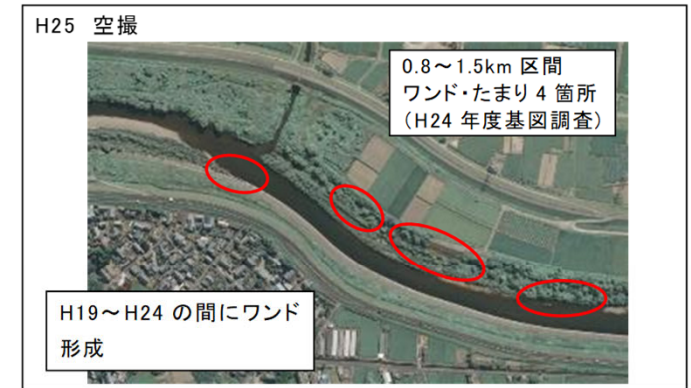
河原面積の変化（1kピッチ）：1～2k区間、4～4.6kの区間で自然裸地（河原）の面積の減少が顕著。



ワンドの変化：H29以降、ワンドは1～2kの区間で多く確認。2～4kの捷水路区間にもワンドが存在。1～2kにおけるH19以降のワンド増加は、H23新潟・福島豪雨等の出水の影響の可能性。

ワンドの数の変化：H19以降ワンド数は増加傾向。

ワンドの数の変化(1kピッチ)：1～2k区間におけるワンド数の増加が顕著。



○データ整理から、以下の視点で早出川の区間を評価し、その結果に基づいて1～2k区間を整備区間として選定。

- ①必要性：環境の悪化による、改善の必要性の高さ → 河原の減少、樹林の増加状況から評価
- ②実現性：整備効果の得られやすさ → 目標環境(ワンド、河原)が存在していた(いる)かどうかで評価
- ③整備効果：整備効果の高さ → 外来種群落の有無、過去の自然再生整備の実施有無から評価

視点	0-1k	1-2k	2-3k	3-4k	4-4.6k
①必要性	・河原面積 減少 ・樹林面積 大幅増加	・河原面積 大幅減少 ・樹林面積 大幅増加	・河原面積 減少 ・樹林面積 大幅増加	・河原面積 減少 ・樹林面積 増加	・河原面積 大幅減少 ・樹林面積 増加
②実現性	・ワンドの数 少ない	・H19以降ワンド形成 (ワンド数 多い)	・H19以降ワンド形成 (ワンド数 多い)	・ワンドの数 少ない	・ワンドの数 少ない
③整備効果	・外来種樹林群落あり ・自然再生 整備未実施	・外来種樹林群落あり ・ワンドに特定外来生物 定着 ・自然再生 整備未実施	・外来種樹林群落あり ・自然再生 整備未実施	・外来種樹林群落なし ・自然再生 整備実施	・外来種樹林群落なし ・自然再生 整備実施
選定結果	整備区間(次点)	整備区間	—	—	—

